

平成 26 年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：2014年4月～2015年3月

※今年度の年次報告書は担当者の名前、メールアドレス、添付資料を除き、HP等で公表します。また、ユネスコスクールの質の確保の観点から、報告書の内容が一定の基準に満たないもの、報告書が2年連続して未提出の場合には、ユネスコスクールの認定取消を勧告させていただくことがありますので、あらかじめご了承ください。

1. 学校概要

学校名 宮城県気仙沼市立鹿折中学校

種別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫教育
 中学校 高等学校 中高一貫教育
 教員養成 技術/職業教育
 特別支援学校 その他 ()

住所 〒988-0812
宮城県気仙沼市大峠山1-263

E-mail : sisiori-jh@blue.ocn.jp

Website : _____

児童生徒数：男子 109名 女子 74名 合計 183名
 児童・生徒の年齢 12歳～15歳

2. 担当者 ※公表しません

3. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- その他 (福祉, 地域復興)

4. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

学校名	気仙沼市立鹿折中学校	主な ESD 領域	福祉, 防災
テーマ	自分らしく生きる		
<p>1 本校の ESD でめざすもの</p> <p>(1) ESD のねらい 持続可能な社会づくりの担い手の育成として、生徒が「自分らしく生きる力」を育む教育を行う。</p> <p>(2) ESD で育てたい資質・能力 「自らの身を守り、乗り切る力」「知識を備え、行動する力」「地域の安全に貢献する力」「安全な社会に立て直す力」「安心・安全な社会づくりに貢献する力」の育成</p> <p>2 今年度の ESD の概要</p> <p>(1) 実践の概要 気仙沼市北東部に位置し、山と海に囲まれた自然豊かな環境にあったが、大震災により学区の大半が壊滅的な被害を受けた。総合的な学習の時間（さくら学習）では、学年単位での学習を行っている。</p>			
全学年	防災学習「登下校時の安全」防災マップづくり, 非常時の対応 (15 時間)		
1 学年	<p>「ふるさとや環境について考える」(35 時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域に関する調査や探究の過程を通し、主体的に学ぼうとする態度や学び方を身に付ける。 ・ 気仙沼の福祉の現状などについての調査や交流活動, 表現活動を通して、地域の人々と触れ合い, より深く関わりをもち, 郷土を愛する気持ちを育てる。 		
2 学年	<p>「地域の産業やくらしを考える」(55 時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 職業に関する調査や体験活動, 表現活動を通して、主体的に学ぼうとする態度や学び方を身に付ける。 ・ 地域での職場体験をすることによって、産業と向き合いながらそれらを支える人々の生活や生き方に触れ, 人と関わり, 人から学ぶ力を育てる。 		
3 学年	<p>「社会のためにできることを考える」(55 時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 防災教育の観点から課題を選び, 調査活動や体験活動, 表現活動を通して、主体的に行動する実践的な態度を身に付ける。 ・ 防災について学習する過程を通して、地域の一員としての自覚をもって、今後の気仙沼の復興など、社会とより意欲的に関わりをもとうという気持ちを育てる。 		
<p>(2) 今年度、特に工夫・改善したこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1 学年の学習を「福祉」を中心に据え、テーマを明確にした。 ・ 2, 3 学年の学習に外部講師による体験的な学習を増やし、生徒の興味・関心を高められるようにした。 <p>3 「国連・ESD10 年」を振り返っての成果と課題</p> <p>(1) ねらい、及び学習内容（活動プログラム内容）の視点から</p> <p>① 成果 8 年間は「自然環境の保全のために取り組むべきことを探る」を、最後の 2 年間は「自分らしく生きる」をねらいとした。学習を通し、地域をより深く理解し、地域と関わろうとする態度を育成できた。</p> <p>② 課題 震災後、地域の状況が一変し、前半積み上げてきた学習が行えなくなった。そこで、ねらいを見直し、現状から実施可能なものを再編成して行っている。今後も検討していく必要がある。</p> <p>(2) 指導計画、及び指導体制、指導方法の視点から</p> <p>① 成果</p>			

